

JAERA

NEWS LETTER

一般社団法人日本自動車リサイクル機構 ニュースレター

- 巻頭言/エアバッグ類の適正な取り扱いについて～起こりやすい事例の紹介～… P1,P2
 □自再協WEBサイトリニューアルのお知らせ… P2 □第13回 業界景況調査の結果について… P3,P4,P5
 □各ブロック会議の報告（中国・四国）/関係団体 総会懇親会・式典報告/第2回自動車リサイクル会議
 （Automobile Recycling Conference(ARC)）開催のお知らせ… P6
 □2023年度 駆動用HVバッテリー共同出荷事業9月出荷状況と今期累計/9月新車販売・使用済自動車発生台数… P7
 □鉄スクラップ最新情報… P8 □行事予定・お知らせ/編集後記… P9

vol. **175**

エアバッグ類の適正な取り扱いについて ～起こりやすい事例の紹介～

01

使用済自動車のエアバッグ類は解体事業者において「取外回収・自動車メーカー等への引渡し」が義務付けられており、皆様は「取外回収」と「車上作動処理」のどちらかの方法で処理を行う必要があります。

車上作動処理では、自動車再資源化協力機構（以下、自再協）と委託契約を結び、国の認定を受け、業務規約及び遵守事項に従って適切に処理を行われ、実際ほとんどの皆様はこちらの方法を選択されていることと思います。

この契約を交わしている皆様の中から無作為に選出して適正に実施されているかの監査が行われますが、コロナ期間中は感染症対策の観点から、事前通知をした上で行われていました。現在では以前同様に無通知での監査に戻っているようです。

会員の皆様は日頃より適正に業務を実施され、未処理や不適正な処理・管理等はされていないと理解しておりますが、今回は注意喚起の意味も含め、普段から適正・確実に処理をしている事業者の方でも起こりえるミスや事例について、自再協に伺ってみました。

①責任者・担当者が変わった際に手順が漏れてしまう

管理台帳の不備、先行報告、書類の提出漏れにつながる

▶後任への引継ぎ、教育の徹底、事業所として適正業務の継続が行えるよう対応をお願いします！

→新任の方は業務に不安があるときには自再協へ連絡ください。



②車台詳細情報の未確認

未処理、不適正保管につながる

▶作動処理、取外回収に関わらず、解体作業時には必ず車台詳細情報を確認の上で、実車との整合と処理の実施をお願いします！



2ページに続く

巻頭言

先月号まで、引取台数の考察記事を配信してきましたが、2023年8月の使用済自動車引取台数が205,832台となり、2021年9月以来、約2年ぶりに前年同月を上回る形となりました。

これ自体は悪いニュースではないのですが、直近5年間の8月期引取台数を振り返ってみますと…22年203,401台、21年233,610台、20年223,408台、19年248,048台となり2番目に低い数字です。ちなみに9月は、2023年から新しい順に224,842台→212,182台→252,221台→251,347台→269,162台です。こちらもやはり、過去2番目の低い数字です。

2022年の8月、9月と比較すると上向いてきていますが、それ以前の年と比較するとまだまだ少ない状況なのかなと感じています。引取台数の推移に関しては、広報部会として今後も注視していきます。

〈広報部会 小宮山 敬仁〉

《編集・発行責任者》
一般社団法人日本自動車リサイクル機構
広報部会長 田村 幸男

《お問い合わせ先》
一般社団法人日本自動車リサイクル機構
〒105-0004
東京都港区新橋3丁目2番2号
TEL: 03-3519-5181
FAX: 03-3597-5171
MAIL: jaera-homepage@elv.or.jp
HP: http://www.elv.or.jp/

また、ミスを防ぐためにこんな好事例があったようです。

【ミスを防ぐ好事例】

沖縄県の会員事業所それぞれの作業場所に作業手順に関する掲示物をして、ミスを防止する取組みを会員間で連携をしながら行っていた。



【掲示物】

～自再協より 車上作動処理をご契約いただいている皆様へ～

一括作動ツールを使用する車上作動処理によって未処理率を大きく低減し、かつ、安全・効率的に処理することが出来ますので、使用していない人はご検討ください。契約されている事業所の皆様には今後も無通知での監査を実施して参りますので、ご協力の程よろしくお願いいたします。

自再協WEBサイトリニューアルのお知らせ

02

平素より自動車リサイクルの適正運用にご協力いただきありがとうございます。「より分かりやすい情報発信」をコンセプトに、10月より当法人のWEBサイトをリニューアルしました。

URL:<https://jarp.org/> (URLの変更はありません)

★必要な情報を各物品毎に確認出来るようになりました。

循環型社会・カーボンニュートラルの実現に貢献します。

1 フロン類

トップページより各物品ページへアクセスいただけます。

タブ内にタイトルのみ表示しています。詳細はプルダウンでご確認いただけます。

スマートフォンにも対応しています。



各社WEBサイト内に自再協WEBサイトへリンクをご掲載いただいている場合には、正しく機能しているかご確認ください。

自動車再資源化協力機構（自再協）
TEL: 03-5405-6150 / E-mail: info@jarp.org

第13回 業界景況調査の結果について

集計・分析：長崎大学経済学部 教授 木村眞実

03

■会員の皆様へ～JAERA事務局より～

いつも景況調査にご協力をいただき誠にありがとうございます。「自動車解体業界にこのような調査がないため是非調査をしたい」、「調査を行うことで少しでも皆様のお役に立てたら」という長崎大学教授の木村先生の思いから2020年に調査をスタートし、今回で13回目を迎えました。

本調査は木村先生と研究室の方々に全て無償で実施いただいております。JAERAは調査票の送信（一部受信）のみお手伝いしております。また、調査で収集したデータ原本の取り扱い・分析等も全て木村先生・研究室の方が行っております。

一般的に景況調査とは「景気動向を総合的に把握することを目的」として行われ、調査の結果は関係機関などによる施策や企業支援などの基礎データとして活用されたり、回答者側にとっては自身の事業所の立ち位置を把握し経営の参考にすることが出来ます。そのためには長期的な調査と多くのご回答が必要となって参りますので、今後とも引き続きご協力の程よろしくお願いいたします。



今回の調査結果についての詳細や解説などは、以下の「報告書版」からご覧ください。

報告書版はこちら ▶ <https://www.elv.or.jp/media/20/20231025-keikyo13.pdf>

一般社団法人 日本自動車リサイクル機構 第13回 景況調査報告 2023年7～9月期(概要版)

業況判断と売上高は改善 経常利益と資金繰りは低下

【調査要領】

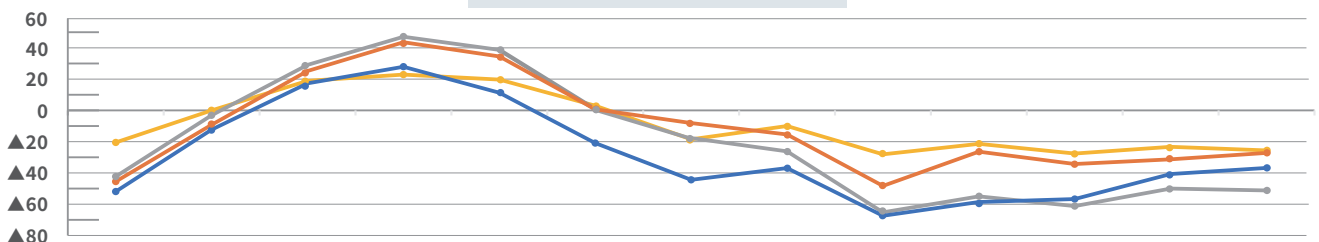
- ①調査時:2023年9月15日(金)～9月29日(金)
 - ②対象企業:日本自動車リサイクル機構会員企業
 - ③調査の方法:FAX・Web の送受信による自計記入を求めた
 - ④回答企業数:462社のうち126社（27.3%）から回答を得た（うち、有効回答数125）
 - ⑤平均従業員数:役員を含む正規従業員数 39.1人（前回31.3人）
派遣社員・臨時・パート・アルバイトの数 14.0人（前回 8.1人）
- ※DI 値(DI : Diffusion Index) 「良い」と答えた割合から「悪い」と答えた割合を引いたもの

※: 本文中の「△」はマイナスを意味する。

第1回景況調査(2020年7-9月期)から第13回景況調査(2023年7-9月期)までの、前年同期比のDI値の推移をみる(図1 参照)。

2020年7-9月期から2021年4-6月期へかけて急激に上昇した。その後、低下し、2022年7-9月期には底となり、2023年4-6月期に向けて上昇傾向にあった。直近の2023年7-9月期では、業況判断と売上高は上昇(マイナスが改善)したが、経常利益と資金繰りについては低下した。

図1 DI値の推移



	2020年 7-9月	10-12月	2021年 1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	2022年 1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	2023年 1-3月	4-6月	7-9月
業況判断	▲51.9	▲12.3	17.3	27.9	11.3	▲20.9	▲44.4	▲36.9	▲67.4	▲58.6	▲56.7	▲40.7	▲36.8
売上高	▲45.5	▲9.2	25.2	43.6	34.5	0.7	▲8.1	▲15.4	▲48.3	▲26.4	▲34.3	▲31.3	▲27.2
経常利益	▲42.3	▲3.1	29.1	47.1	38.7	0.7	▲17.7	▲26.2	▲65.2	▲55.0	▲61.2	▲50.0	▲51.2
資金繰り	▲20.5	0.0	18.9	22.9	19.7	3.0	▲18.5	▲10.0	▲28.1	▲21.4	▲27.6	▲23.3	▲25.6

(1) 概況（業況判断・売上高・経常利益・資金繰り）

2023年7～9月期の、業況判断、売上高、経常利益、および資金繰りについて、前年同期（2022年7～9月比）との比較が図2から図5である。回答者が「良い」と答えた割合から「悪い」と答えた割合を引いたDI値は、業況判断が△36.8（前回△40.7）、売上高が△27.2（前回△31.3）、経常利益が△51.2（前回△50.0）、および資金繰りが△25.6（前回△23.3）であった。

図2 前年同期(22年7-9月)比 業況判断:DI値△36.8

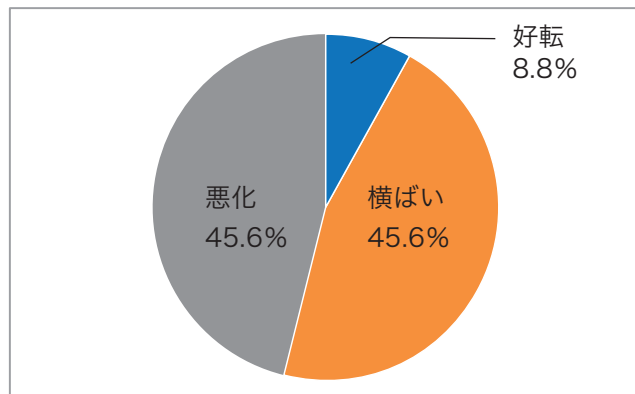


図3 前年同期(22年7-9月)比 売上高:DI値△27.2

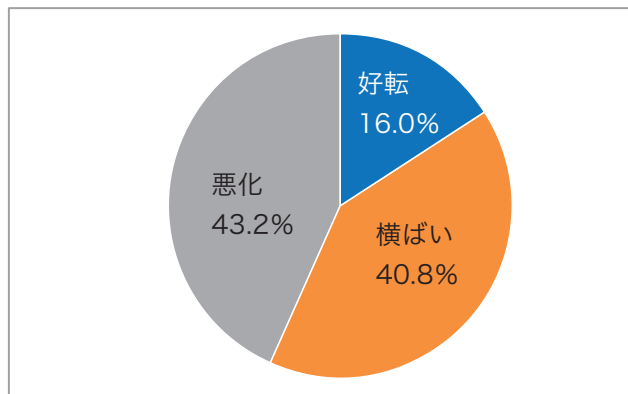


図4 前年同期(22年7-9月)比 経常利益:DI値△51.2

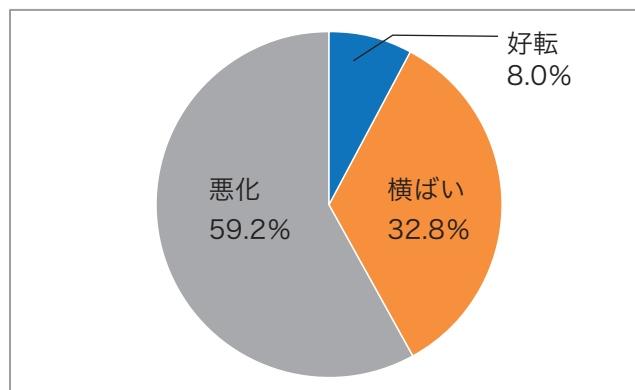
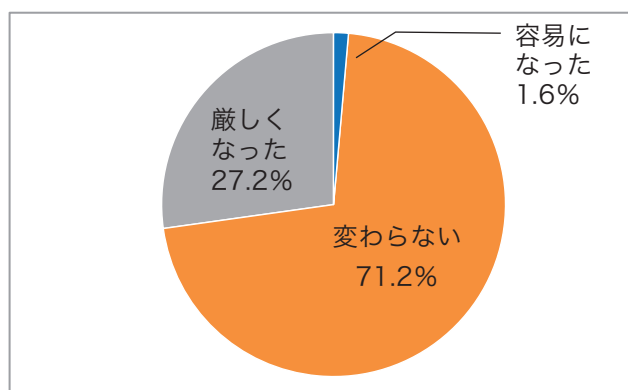


図5 前年同期(22年7-9月)比 資金繰り:DI値△25.6



(2) 金融機関の姿勢変化の有無と内容

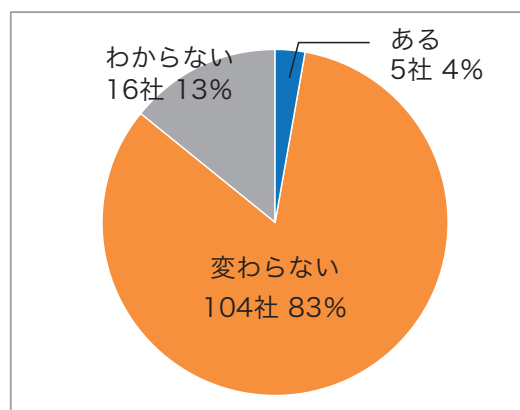
2023年7～9月期の金融機関の姿勢変化の有無について、「ある」が5社・4%（前回5社・3%）であり、「変わらない」が104社・83%（前回125社・83%）であった（図6参照）。

さらに、姿勢変化の具体的な内容を複数回答可で質問したところ、新たな貸し渋り2社（前回1社）、貸付攻勢1社（前回1社）、私募債の勧誘1社（前回2社）、経営指針（経営理念）を重視するようになった1社（前回1社）、金利アップを要求されている1社（前回無）、その他1社（前回無）であった（表参照）。

表 金融機関の姿勢変化の内容（複数回答可）

新たな貸し渋り	2社
貸付攻勢	1社
私募債の勧誘	1社
経営指針（経営理念）を重視するようになった	1社
金利アップを要求されている	1社
その他・取引先金融機関担当者の質（知識や対応力）が非常に悪くなった。	1社

図6 金融機関の姿勢変化

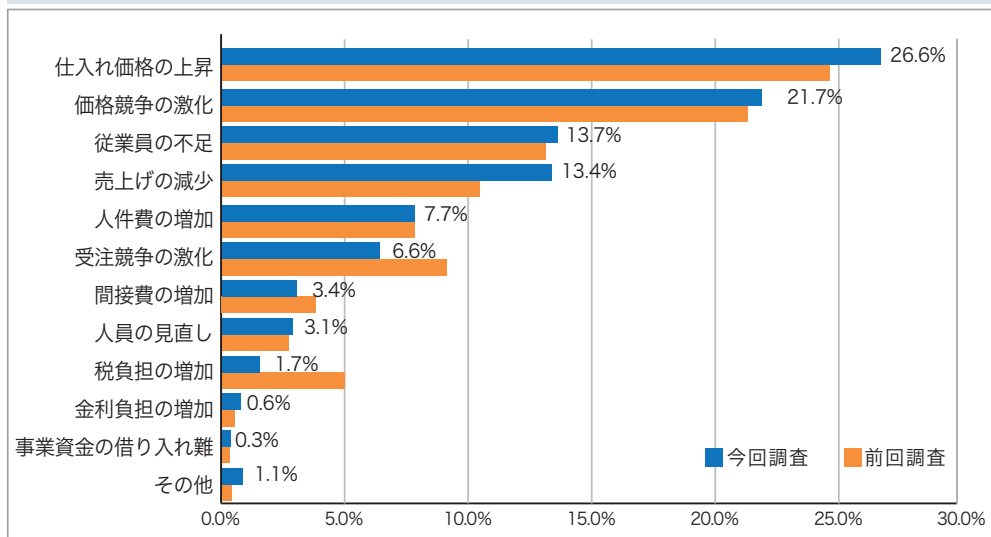


(3) 経営課題と取り組み等

①経営課題

2023年7～9月期において、経営上の課題として深刻なものは、仕入れ価格の上昇(93社・26.6%)、価格競争の激化(76社・21.7%)、従業員の不足(48社・13.7%)が上位であった(図7参照)。

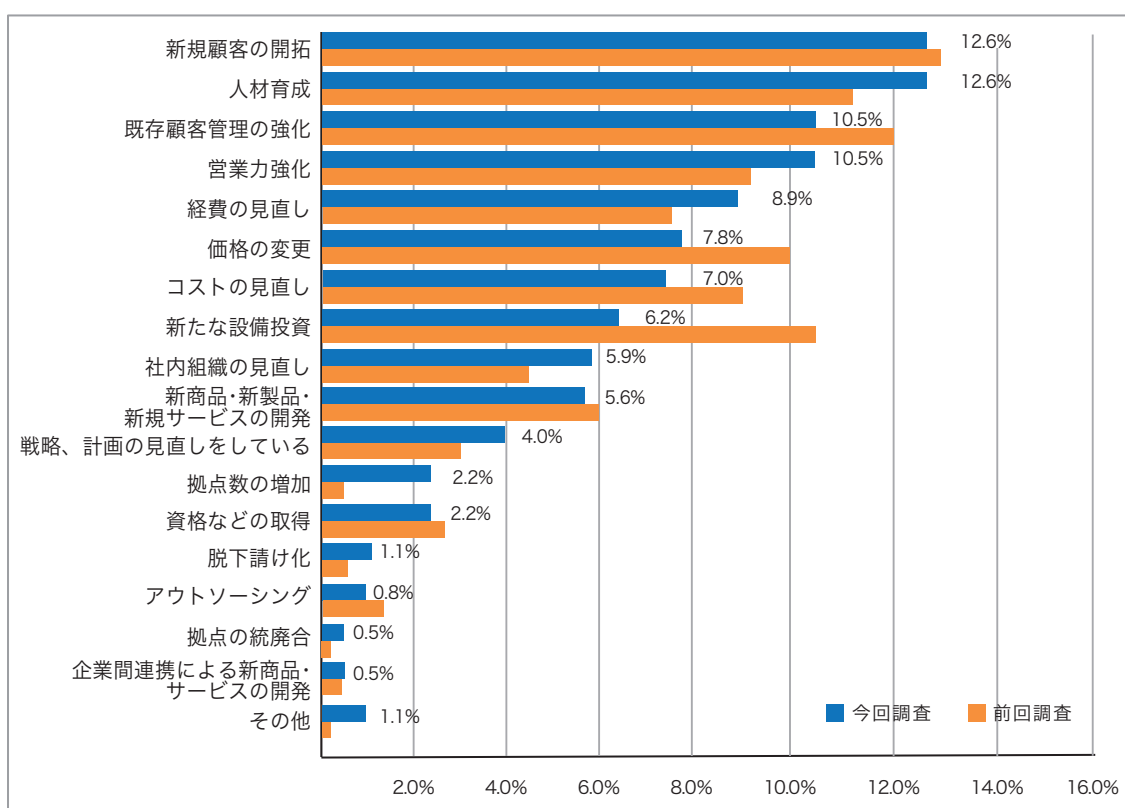
図7 経営上の課題（上位3つまでの複数回答）



②現在の取り組み

2023年7～9月期において「現在取り組んでいること」は、上位から、新規顧客の開拓(47社・12.6%)、人材育成(47社・12.6%)、既存顧客管理の強化(39社・10.5%)、営業力強化(39社・10.5%)であった(図8参照)。

図8 現在取り組んでいること（上位3つまでの複数回答）



③お困りごと、ご意見等の自由記述

自由記述として以下の回答があった。 ※「特になし」の回答を除く

・解体車両の仕入れに苦戦している。・人材不足・許可が無い業者の取り締まりをお願いしたい。・仕入値の高騰と、人件費の高騰。・最低賃金が高くなりすぎて、同じ仕事・同じ成果をしていても勝手に賃金が上がるので財務の圧迫につながっている。・社会保険料と消費税の負担が大きく、利益が出てもキャッシュフローが大変。・インボイス制度により免税事業者からの仕入で消費税分を負担しなければならない。・沢山ありすぎる。・円安の影響が強い。中古車が海外バイヤー、オークションにという流れが強まった。日本で事業をする海外バイヤーが増えたため、円安だと対抗できない。オークションの買い取り金額が高額なために解体業の必要性を考えさせられる。・人員難・このアンケートがどう生かされるのか疑問です。

ブロック会議の開催結果

及び関係団体 総会懇親会・式典報告

04

中国・四国ブロック会議の開催結果

9月26日(火)、中国・四国ブロック会議が山陰エコリサイクル(島根県松江市)で開催されました。会議では本部の人員増強に関する報告に始まり、自動車リサイクル士の活用方法、会員の処理台数におけるシェア率、インボイス制度への対応状況などの意見交換が行われました。また会議後には山陰エコリサイクルの工場見学を行い、会社の成り立ちや経営方針などを理解するなかで活発な情報交換が行われました。



【会議の様子】

一般社団法人日本トラックリファインパーツ協会 (JTP) 総会懇親会

当機構の団体会員でもあります、一般社団法人日本トラックリファインパーツ協会(JTP)の総会懇親会が、10月13日(金)東武ホテルレバント東京(東京都墨田区)にて開催され、当機構からは木内副代表理事、阿部参与が出席しました。84名の方々が一堂に会し、参加者同士の話が尽きることはない賑やかな会となりました。



【懇親会の様子】

システムオートパーツグループ 35 周年記念式典

10月13日(金)ホテルイースト21東京(東京都江東区)にてシステムオートパーツグループ35周年記念式典が開催され、当機構から酒井代表理事が出席し、当日は皆様へお祝いの挨拶をさせていただきました。平成元年の発足から35年目を迎え、総勢102名の参加者が集まったことで、終始明るく華やかな式典となりました。



【酒井代表理事 挨拶の様子】

第2回自動車リサイクル会議 (Automobile Recycling Conference(ARC)) 開催のお知らせ

05

昨年に引き続き、自動車リサイクル促進センター主催の「第2回自動車リサイクル会議が開催されます。今回は昨年度の実績を踏まえ、より踏み込んだテーマで、また、会場とオンラインの併用で様々な領域で活躍されている方同士の一層の交流促進につなげたいとこのことですので、皆様是非ご参加ください。

■開催概要

【開催テーマ】循環型社会実現への道 ～自動車リサイクルはどう貢献するか～

【開催日時】2023年12月13日(水) 13:00～17:00

【開催形式】Zoomウェビナーまたは会場参加

会場：AP浜松町(東京都港区芝公園2-4-1 芝パークビルB館 B1F)

【交流会の開催】会場参加の方を対象とした交流会を同会場にて開催いたします(17:15～19:00)

【参加費】無料 ※事前登録制

【言語】日本語

※プログラム等の詳細：

<https://www.jarc.or.jp/renewal/wp-content/uploads/2023/10/7627bb93af8ec6caf04d902ddf5a8b58-1.pdf>

【申込締切】2023年11月26日(日)

事前登録制となりますので、出席のお申込みは以下URLよりお願いいたします。

https://us06web.zoom.us/webinar/register/WN_wJ-1oiOSw2-3-i1YaALbw

■本件に関するお問い合わせ : 自動車リサイクル会議事務局 (E-mail : arc@jarc.or.jp)

2023年度 駆動用HVバッテリー共同出荷事業 9月出荷状況と今期累計

06

上段：9月出荷数 下段：今期累計 単位：個

参加会社数 (社)	プリウス 20	プリウス 30	プリウスα41	レクサス CT200H	アクア /ヴィッツ	カラーラクシオ /フィルダー	クラウン HV GWS204	クラウン HV AWS210
24	19	39	2	0	53	4	0	1
58	49	250	2	0	353	5	5	3

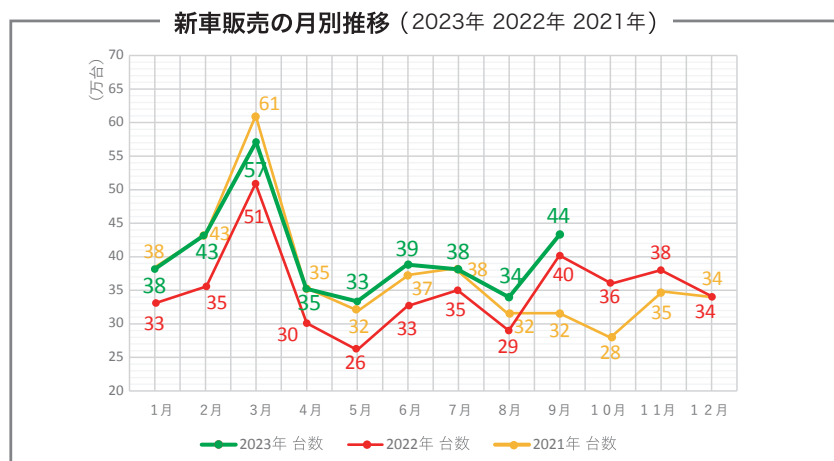
SAI/ レクサス HS250H	日産デュトロ /ブルーリボン	ノア/ヴィクシー /エスファイア	シエンタ HV	プリウス 50	プロボックス サクシード	マツダ アクセラ	不良品 A-C	合 計
2	0	5	1	0	0	1	20	147
7	60	10	3	2	0	1	123	873

□2022年度の結果はこちら▶ <https://elv.or.jp/index.php?itemid=1853>

9月新車販売・使用済自動車発生台数

07

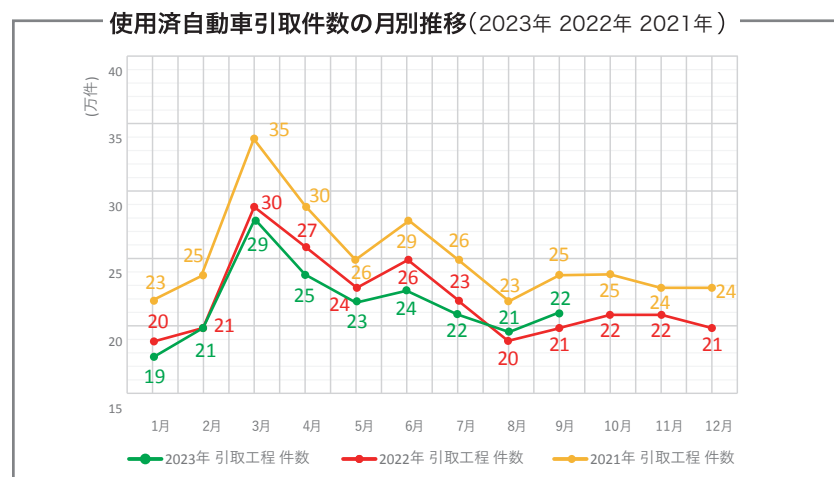
■2023年9月度 新車販売台数 437,493台 (前年同月比110.7%)



過去の新車販売台数推移		
年累計	台 数	前年比(%)
2023年 (9月まで)	3,607,448	115.6
2022年	4,201,320	94.4
2021年	4,448,340	96.7
2020年	4,598,615	88.5
2019年	5,195,216	98.5

※出所：一般社団法人 日本自動車販売協会連合会

■2023年9月度 使用済自動車引取(電子マニフェスト)実施状況

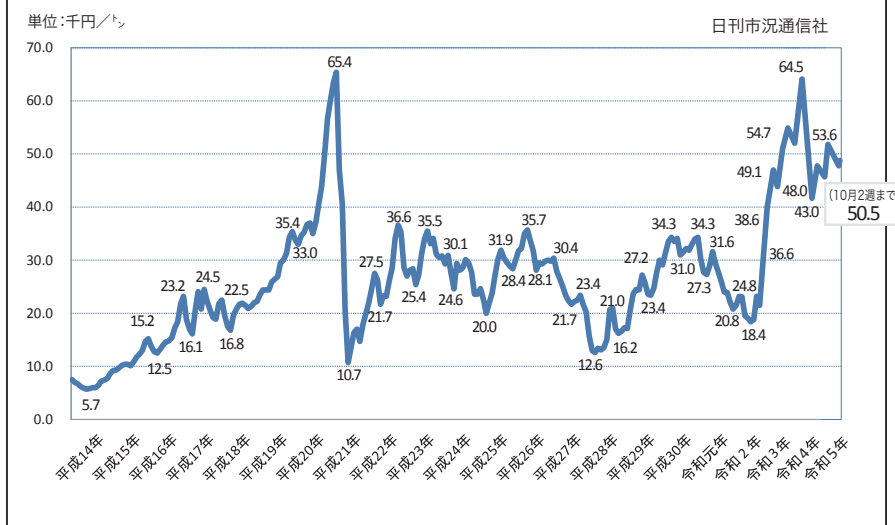


引取件数	
9月	224,842件 (前年同月比106.0%)
フロン回収工程	
9月	201,438件 (前年同月比106.5%)
解体工程	
9月	230,760件 (前年同月比104.6%)

※出所：公益財団法人 自動車リサイクル促進センター

10月第3週(20日)の鉄スクラップ動向

鉄スクラップ市況(5地区代納平均価格)の推移



10月20日の国内スクラップ炉前実勢価格(中心値)

		H2	気配
関東	北関東	50,500～51,500	様子見横ばい
	南関東	50,500～51,500	様子見横ばい
	浜値	50,000～51,500	様子見横ばい
名古屋		48,500～51,000	軟調気配
関西	大阪	50,500～51,000	様子見
	姫路	50,000～50,500	様子見

国内市場 需要家筋は概ね様子見姿勢

国内市場の鉄スクラップ市況は概ね様子見横ばいでの推移が続いている。海外・輸出市場が続落する展開となっているが、国内電炉で鉄スクラップ購入価格を値下げ改定したのは東海電炉5社にとどまっており、20日時点では電炉筋の多くが購入価格を据え置いたままだ。このため、国内H2相場は多くの地区で5万円台を維持している。

トルコやアジアの米HMS輸入価格は値下がりする状況が続き、両市場とも前月末時点からは20日前後の値下がりとなっている。鋼材価格が伸び悩み、値下がりする動きも見られることが、原料の鉄スクラップ相場にも影響している。また、中国からの鋼材輸出が増加しており、これが鋼材相場を冷やす要因ともなっている。

しかし、日本国内市場では、市中スクラップの発生・荷動きが依然として低調なため、鉄スクラップ需給に目立った緩和感は見られない。海外・輸出安のため市中の先高観が後退しているにもかかわらず、市中間屋筋は入荷低調で手持ち在庫も薄いことから、出荷量が伸びない状況が続いているためだ。国内電炉鋼生産は対前年同月比で減少傾向が続く、鉄スクラップ需要も減少している。しかし、それ以上に荷動きが薄く、需要家筋は慎重な価格対応をせざるを得ない状況だ。

【関東地区】 電炉購入価格・浜値が同水準で様子見横ばい

関東市場は、電炉購入価格と浜値が同水準で並んだまま様子見横ばいの推移が続いている。中旬時点の在庫水準は高水準を維持したが、市中スクラップの発生・荷動きは依然として低調なため、需要家筋は引き合いを緩められる状況にはない。入荷・在庫とも低水準のため、出荷量が伸び悩んだままだ。H2炉前実勢価格は50,500～51,500円中心。H2浜値は50,000～51,000円中心、高値51,500円見当で様子見横ばいが続く。

【東海地区】 軟調気配、様子見を続けるメーカーが大半

名古屋地区の鉄スクラップ市場は軟調様子見気配だ。東京製鉄は9月13日に中部以東3拠点の購入価格を引き上げ国内に4つある生産拠点の特級価格を51,000円に統一した後、10月20日まで5週以上にわたり動きが見られない。夏場の減産期を超え生産が増加していることや、甲山類の発生低迷が相場を下支えする形で、様子見を続けるメーカーが大半だ。H2炉前実勢価格は48,500～50,000円中心、高値5万1000円見当。

【大阪地区】 複数が在庫余力抱え様子見の展開

大阪地区の鉄スクラップ市況は様子見が続く。一部の電炉や湾岸筋で品種によって実勢以上の引き合いも聞かれるが、複数で在庫余力を抱えたままにあるほか、海外安が先々の動向を不明なものにしていることで、慎重見守り姿勢を維持する動きにある。電炉筋の多くは在庫余力を抱えたままにあり、入荷減に対する焦りの色は見られないH2炉前実勢価格は、大阪地区が50,500～51,000円、姫路地区が50,000～50,500円。

(※価格、数量等は日刊市況通信社調べ、10月20日午後時点のもの)

行事予定

— 11月の主な行事予定—

November

- 11月7日（火）
 - ・第7回 広報部会（WEB）
- 11月14日（火）
 - ・J-FAR（エアバッグ布等リサイクルのための基盤づくり）定例会（WEB）
- 11月15日（水）
 - ・第2回 ブロック長会議（対面・WEB）
- 11月16日（木）
 - ・J-FAR（樹脂リサイクル社会実装事業）定例会（WEB）
- 11月28日（火）
 - ・第2回 未来部会（WEB）

※ 急遽、日程変更・延期の場合がございます。

【自動車リサイクル士 新規講習会 修了試験日程一覧】

・11月 2日（木）福岡会場

・11月10日（金）沖縄会場

お知らせ

JAERA会員データ調査へのご回答をお願いします！

既に会員の皆様の元へ郵送にて届いているかと思いますが、現在当機構ではJAERA会員の皆様を対象としたデータ調査を行っており、こちらは**全会員の皆様に必ずご回答いただくよう**お願いをしております。

大変お手数をおかけいたしますが、こちら調査の趣旨をご理解いただき、期日までにご回答いただきますよう何卒よろしくお願い申し上げます。

ご不明な点等ございましたらお気軽に当機構事務局（TEL：03-3519-5181）までご連絡ください。

【参考】調査趣旨

<https://www.elv.or.jp/media/20/20231019-202310kaiinndetatyosa.pdf>

編集後記

広報部会と言われるまでもなくニュースレターの編集制作が主な仕事です。また、日本自動車リサイクル機構の会員の皆様に対して、ニュースレターの重要性和価値を伝えることも大切な仕事だと思っています。そのため、定期的に会議を開催して記事や特集について検討を重ねるなかで、いかに多くの皆様にニュースレターを見てもらうかということを常々考えています。

例えばニュースレターを直接手渡ししたりするのも有効かなとか、各地域で皆様が関わっている取り組みやイベントなどを積極的に紹介することで読者の方の関心を高められないかとか、皆様から記事を提供いただきニュースレターの制作に参加してもらうことで誌面と読者との結びつきを深められないかとか、投稿や情報提供などの協力を呼び掛けて皆でニュースレターを創り上げる形に出来ないか…などなど、“皆様に読んでもらうためにどうすればいいのか”が永遠のテーマとなっています。

これからの時代、AIの更なる発展により「ニュースレターの編集は人工知能にお任せ」となるやもしれませんが、人間にしか提供できない付加価値や、読者との感情的なつながりを築くことなどはAIには代替できない要素だと思います。引き続き、編集者と読者とが「心通じる」ニュースレターの制作に広報部会一丸となって携わっていきたいと思います。

（広報部会長 田村 幸男）